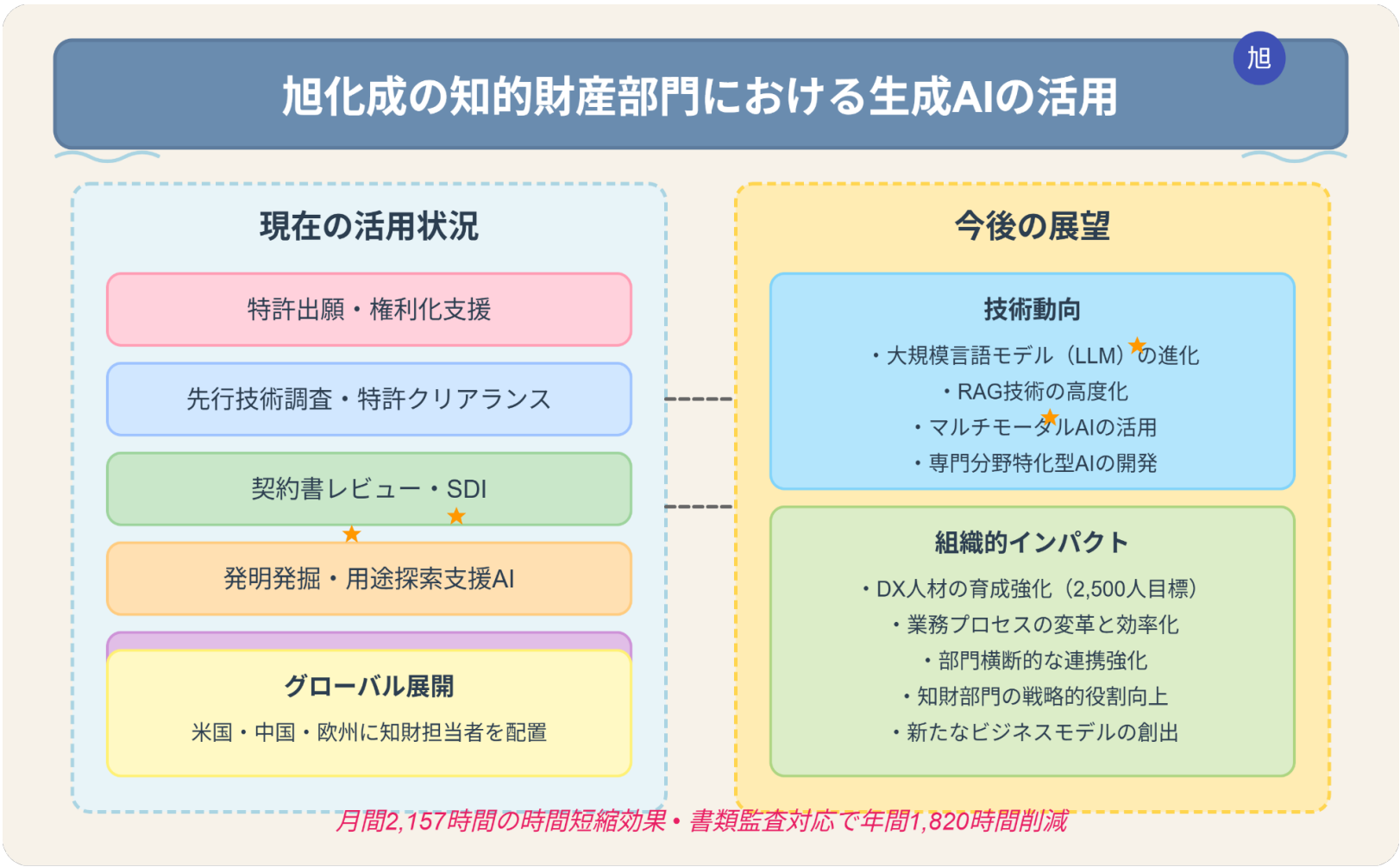


旭化成の知的財産部門における生成 AI の活用

Felo AI



概要

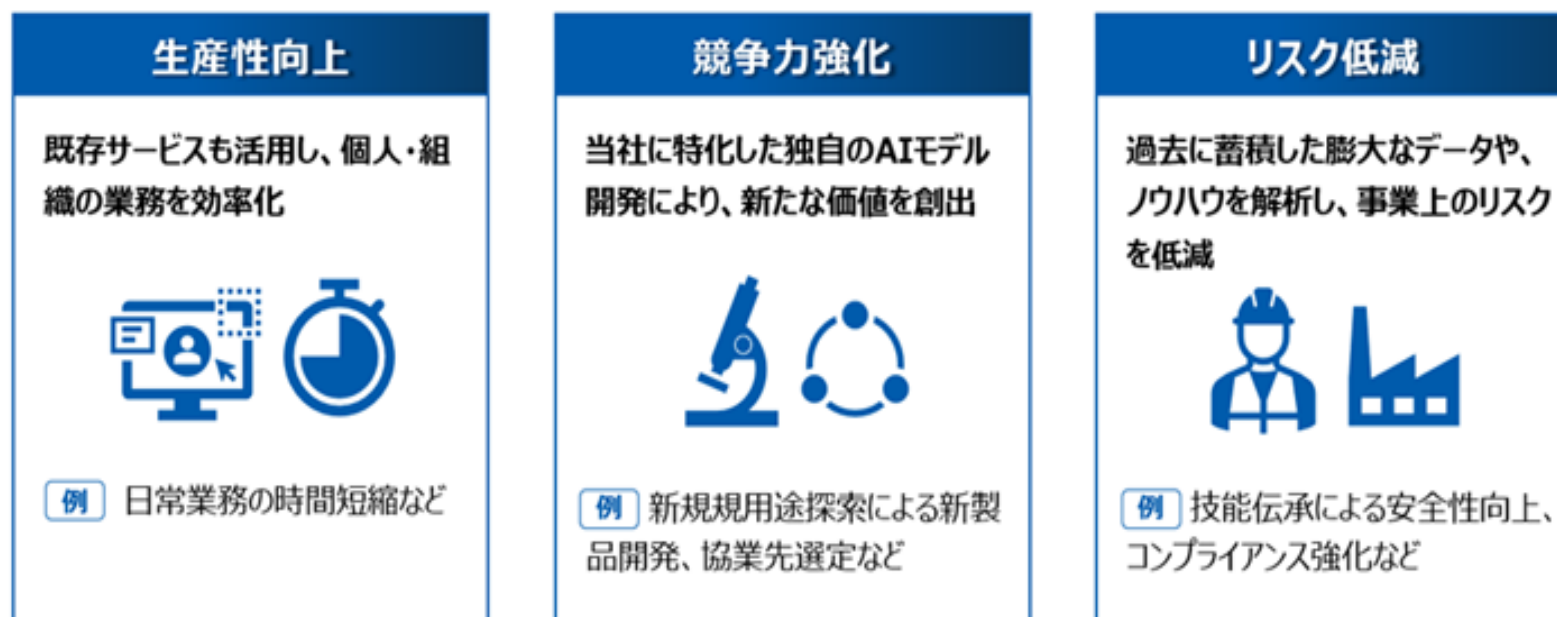
旭化成株式会社は、デジタルトランスフォーメーション（DX）戦略の中核として生成 AI の活用を積極的に推進しており、知的財産部門においてもその適用範囲は拡大しつつある。2023 年 5 月よりグループ全体で生成 AI の活用を開始し、業務効率化に留まらず、競争力強化や事業リスク低減を目指している [15460](#)。特に、材料の新規用途探索や製造現場の技術伝承といった分野で具体的な成果を上げており、知的財産業務においても特許作成支援などで活用されている [1 15](#)

[34](#)。同社は、社内データと連携可能な独自のデジタル基盤を整備し、全従業員を対象とした DX 人材育成プログラムを通じて生成 AI スキルの向上を図っている [154261](#)。知的財産部門では、IP ランドスケープ活動を強化し経営戦略へ貢献しており [12 24 28](#)、生成 AI の活用により、先行技術調査、発明発掘、知財戦略策定など幅広い業務の高度化・効率化が期待される。グローバル展開においても、米国、中国、欧州に知財担当者を配置し、現地での事業活動をサポートしており [16](#)、生成 AI はグローバルな知財管理や戦略実行においても重要な役割を担うと予測される。今後の技術動向としては、より高度な自然言語処理能力を持つ AI やマルチモーダル AI の活用、組織的には DX 人材のさらなる拡充と部門横断的な無形資産活用が進むと見込まれる。

詳細報告

旭化成における生成 AI 活用の全体方針

旭化成は、2023 年 5 月からグループ全体で生成 AI の積極的な活用を支援し、業務効率化を推進している [15460](#)。当初は生産性向上を主目的としていたが、現在は競争力強化や事業上のリスク低減といった、より戦略的な活用へとシフトしている [160](#)。2024 年 1 月からは、社内データと生成 AI を連携させる新たなデジタル基盤を整備し、従業員がより安全かつ手軽に生成 AI を利用できる環境を構築している [15 36 42](#)。

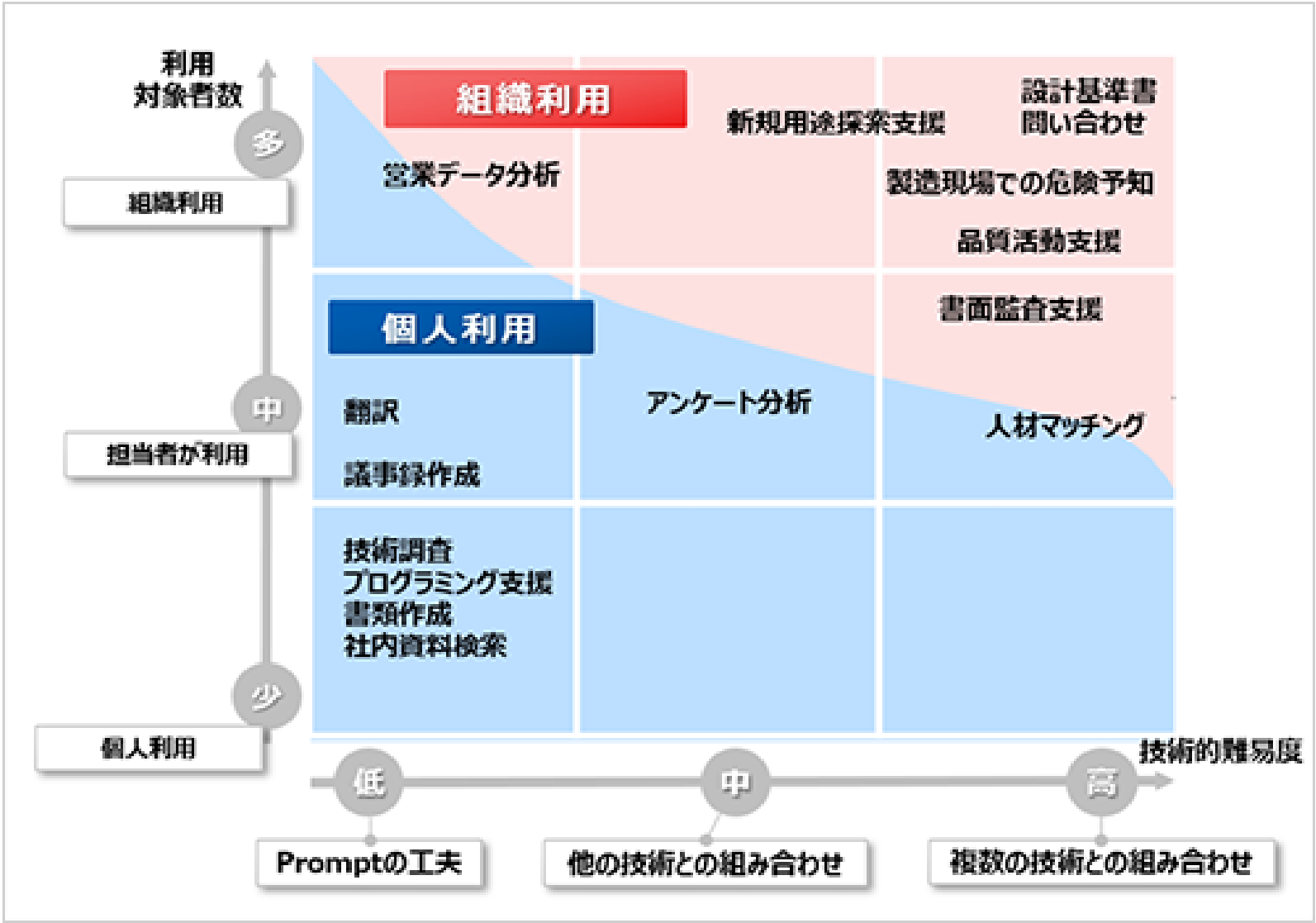


同社は生成 AI の活用を「個人利用」と「組織利用」の両面から支援している [160](#)。

- 個人利用: Microsoft 365 Copilot などの既存サービスを活用し、書類作成や社内資料検索といった日常業務の効率化

を図っている。全社的な人材育成として、従業員向けデジタル教育「旭化成 DX オープンバッジ」内で生成 AI コースを開講し、日本マイクロソフトと連携した教育プログラムも実施している [160](#)。これにより、業務全体で月間 2,157 時間の時間短縮効果が報告されている [160](#)。

- **組織利用:** 2023 年 12 月より、社内のシステム開発者向けに生成 AI モデル利用基盤を公開し、各組織のデジタルプロ人材が業務に合わせた生成 AI を内製できる体制を整えた [160](#)。技術的難易度が高いテーマについては、専門組織である「生成 AI・言語解析ユニット」や「スマートファクトリー推進センター」が技術支援を行っている [160](#)。書類監査対応業務では、ニーズに合わせた生成 AI 開発により年間 1,820 時間の時間短縮を実現した事例もある [160](#)。



社長の工藤幸四郎氏は、「今後のビジネスは未来を予測することから始まる。生成 AI はそのためのツールの一つとして活用していきたい」と述べており、全社的な DX 戦略の一環として生成 AI 活用を位置づけている [154261](#)。

知的財産部門における生成 AI の具体的な活用状況

旭化成の知的財産部門は、経営戦略、事業戦略、研究開発戦略と一体となった知財活動を推進しており、特に IP ランドスケープ（IPL）活動を強化し、経営判断に資する情報提供を行っている [7 12 16](#)。生成 AI は、これらの活動をさらに高度化・効率化するツールとして期待されている。

特許出願・権利化 旭化成は、社内データ連携による特許作成など、専門性の高い業務に生成 AI を利用できるようにしている [154261](#)。これは、明細書ドラフト作成、クレーム作成支援、図面作成補助などへの応用を示唆している。生成 AI を活用することで、出願書類の品質向上や作成時間の短縮が期待される。AI Samurai などの企業が提供する生成 AI による特許出願作成支援サービスも市場には存在しており、同様の技術活用が考えられる [29](#)。

先行技術調査 旭化成は、信頼性が高く効果的な特許調査を重視しており、研究者自身も一次調査を行うことで調査能力とモチベーション向上を図っている [16](#)。2022 年には、AI 特許調査プラットフォーム「Amplified AI」を全社員のうち希望者にアカウントを付与する形で導入し、発明に直接関わらない部署も含めた全社的な活用を推進している [657786](#)。これにより、誰でも手軽に特許調査を行える環境を整備し、事業発案を後押ししている [646577](#)。また、同社が開発した「用途探索支援 AI」は、大量の特許文献から用途や材料の特徴を抽出し、統計処理と生成 AI によるラベリングを行うことで新規用途探索に活用している [25 57 62](#)。これは、先行技術調査においても、関連性の高い文献の効率的なスクリーニングや、技術動向の把握に応用可能である。

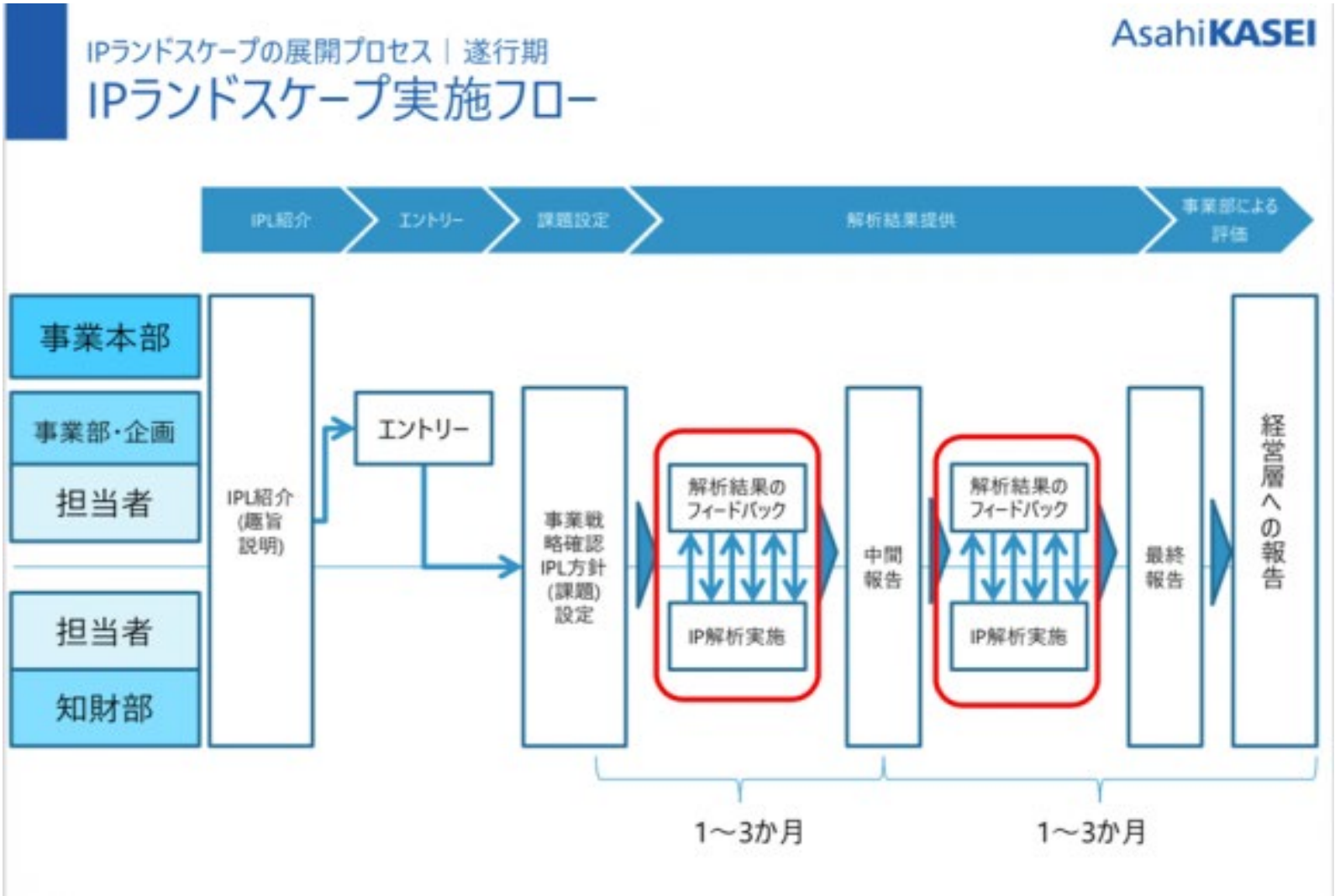
特許クリアランス（FTO 調査） 他社特許との抵触リスクを評価する特許クリアランス調査においても、先行技術調査と同様の AI 技術が活用できる。膨大な特許文献の中から関連特許を効率的に抽出し、侵害リスクの初期評価を支援することが期待される。

SDI (Selective Dissemination of Information) 特定の技術分野や競合他社の最新特許情報を継続的に監視し、関係者に提供する SDI 業務においても、生成 AI による自動化・効率化が期待される。関連キーワードや技術分類に基づいて、AI が自動的に新着特許を抽出し、要約を作成して配信するような活用が考えられる [71](#)。

契約書レビュー 生成 AI は、契約書の条項チェック、リスク箇所の特定、修正案の提案など、契約書レビュー業務の効率化と品質向上に貢献する可能性がある。特に、ライセンス契約や共同開発契約など、知的財産に関連する契約のレビューにおいて有用性が期待される。市場には、生成 AI を活用した契約書作成支援システムも登場している [76](#)。

発明発掘 旭化成は、生成 AI を材料の新規用途探索に活用し、大きな成果を上げている [1 34 38](#)。専門人材と各事業領域が連携し、用途を自動抽出する AI と、有望な用途候補を抽出する生成 AI を開発。これにより、膨大な文献データから 6,000 以上の用途候補を考案し、ある材料では候補選別にかかる時間を従来の約 40%に短縮した [160105](#)。この「用途探索支援 AI」は、米 OpenAI の GPT-4o などを応用し、前工程で別の AI が作成した質の高いデータを入力することで精度を高めている [3 25 35](#)。このような取り組みは、研究者のアイデア創出支援や、既存技術の新たな応用先の発見といった発明発掘活動に直結する。生成 AI との「壁打ち」を通じて新たな着想を得ることも期待される [4 20 41](#)。将来的には、生成 AI による他社製品の技術分析を通じた協業先選定も視野に入れている [160](#)。

IP ランドスケープ (IPL) 旭化成は、IP ランドスケープを経営戦略の重要なツールと位置づけ、2000 年頃から類似活動を開始し、2018 年には専任の知財戦略組織（知財戦略室、後に知財インテリジェンス室に発展）を設立するなど、先進的に取り組んでいる [24](#) [26](#) [28](#)。経営層の理解とトップダウンでの推進が特徴であり [2426](#)、事業判断や M&A 戦略にも知財情報を活用している [7](#) [45](#) [56](#)。IP ランドスケープにおいては、特許情報だけでなく、市場情報やニュース記事など多様な情報を統合的に分析する必要がある。生成 AI は、これらの大量かつ多様な情報の収集、整理、分析、そして可視化レポートの自動生成といった面で貢献が期待される。旭化成は、SPEEDA や VALUENEX Radar といったツールも活用しており [39](#) [53](#) [67](#)、これらと生成 AI を組み合わせることで、より高度で迅速な IPL 分析が可能になる。



知財戦略策定・実行 IP ランドスケープ分析の結果や、生成 AI による市場・技術動向予測は、よりデータドリブンな知財戦略の策定と実行に不可欠となる。旭化成は、事業戦略、研究開発戦略、知財戦略を一体として推進しており [16 27 46](#)、生成 AI はこれらの連携をさらに強化し、経営判断に資する質の高い情報提供を支援する。

グローバル展開における生成 AI 活用

旭化成は、グローバルな事業展開を積極的に進めており、知的財産戦略もこれと連動している。米国、中国、欧州に IP 担当者を配置し、現地の事業活動をサポートしている [16](#)。特に、米国、中国、欧州、東アジア、東南アジアなどの市場を重視している [16](#)。2023 年には北米の地域統括会社の本社を自動車産業が集積するミシガン州ノバイ市に移転し、マーケティング活動を強化している [19](#)。また、中国の深圳には「深圳共創センター」を設立し、現地のニーズに対応した開発を進めている [33](#)。

このようなグローバルな事業展開において、生成 AI は以下の点で活用が期待される。

- **グローバル特許ポートフォリオ管理**: 各国・地域の特許制度の違いを踏まえた出願戦略の最適化、権利維持判断の支援。
- **多言語対応**: 各国言語の特許文献や技術資料の翻訳・要約、現地担当者とのコミュニケーション支援。
- **海外法制度・判例調査**: 各国の知財関連法規や判例の迅速な収集・分析。
- **クロスボーダーM&A における知財デューデリジェンス**: 被買収企業の知財ポートフォリオ分析、リスク評価の効率化。
- **グローバル市場・競合分析**: 海外市場の技術動向や競合他社の知財戦略のリアルタイムな把握。

旭化成は、法的状況のウォッチングツール「Legal Status Tracker」を導入し、特許の法的状況監視を自動化しており、これはグローバルな権利管理にも貢献していると考えられる [3296](#)。

今後の導入・活用拡大に関する予測

技術動向 旭化成における生成 AI の活用は、今後さらに進化する技術動向を反映していくと予測される。

- **大規模言語モデル（LLM）の進化**: より高度な自然言語理解・生成能力を持つ LLM の登場により、特許文書の読解、要約、作成支援の精度が向上する。旭化成は既に GPT-4o などの最新モデルを応用している [253562](#)。
- **RAG（Retrieval Augmented Generation）の高度化**: 社内データベースや特許データベースと LLM を連携させる RAG 技術の活用が進み、より専門的で信頼性の高い情報に基づいた回答生成が可能になる [2562](#)。
- **マルチモーダル AI の活用**: テキスト情報だけでなく、画像（図面、化学構造式など）や音声データを統合的に解析できるマルチモーダル AI の活用が進む。旭化成は工場センサーから取得した非構造化データ（画像・音声）の解析による危険回避も視野に入れている [160](#)。

- **専門分野特化型 AI の開発:** 知的財産業務や特定の技術分野に特化したファインチューニングや独自モデルの開発が進み、より専門性の高いタスクに対応できるようになる [2562](#)。
- **AI による分析・予測能力の向上:** IP ランドスケープ分析におけるトレンド予測、技術の将来性評価、M&A ターゲットのスクリーニングなど、より高度な分析・予測タスクへの AI 活用が拡大する。

組織的インパクト 生成 AI の導入・活用拡大は、旭化成の知的財産部門および全社的な組織運営に以下のようなインパクトを与えると予測される。

- **DX 人材のさらなる育成と役割変化:** 全従業員を対象とした「DX オープンバッジ」制度などを通じ、生成 AI を使いこなせる人材育成が継続される [1 15 60](#)。2024 年度には高度デジタル人材を 2021 年度比 10 倍の 2,500 人に増やす目標を掲げている [15 18 21](#)。知財担当者には、AI ツールの活用スキルに加え、AI が出力した結果を批判的に吟味し、戦略的な意思決定に繋げる能力がより一層求められるようになる。
- **業務プロセスの変革と効率化:** 定型的な調査業務や書類作成業務の多くが AI によって自動化・効率化され、知財担当者はより高度な分析業務や戦略立案業務に注力できるようになる。既に書類作成や資料検索で月間 2,157 時間、書類監査対応で年間 1,820 時間の時間短縮効果が出ている [160](#)。
- **部門横断的な連携強化と無形資産活用:** 生成 AI を共通基盤として、研究開発、事業、知財部門間の連携が強化され、マテリアル、住宅、ヘルスケアといった 3 つの事業領域を横断した無形資産（技術、ノウハウ、知財）の活用が加速する [5 11 21](#)。
- **知財部門の戦略的役割の向上:** IP ランドスケープや技術動向分析に生成 AI を活用することで、経営層へのより迅速かつ的確な情報提供が可能となり、知財部門の経営戦略への貢献度が高まる [7 45 56](#)。旭化成では、知財インテリジェンス室が経営判断の助けとなる情報を提供している [7 45 56](#)。
- **情報セキュリティと倫理的課題への対応:** 生成 AI の利用拡大に伴い、機密情報の漏洩リスク管理や、AI が生成したコンテンツの著作権、倫理的側面への対応がより重要になる。旭化成は、外部への情報漏洩対策を施した安全な環境下での利用を基本方針としている [154061](#)。日本における生成 AI と著作権法の関係性 [14](#) などとも考慮したガバナンス体制の構築が求められる。
- **新たなビジネスモデルの創出:** 生成 AI を活用した新規用途探索や他社技術分析を通じて、新たな事業機会の発見やビジネスモデルの変革が促進される可能性がある [160](#)。

結論

旭化成は、生成 AI を知的財産業務を含む全社的な DX 戦略の推進力として明確に位置づけ、具体的な活用事例を着実に積み上げている。特許作成支援、先行技術調査、発明発掘、IP ランドスケープといった幅広い知財業務において、生成

AIによる効率化と高度化が進展している。特に、独自開発の「用途探索支援 AI」は、同社の強みである材料開発分野における競争力強化に大きく貢献している。

グローバルな事業展開においても、生成 AI は多言語対応や各国法制度への迅速な対応を可能にし、国際的な知財戦略の実行を支援する重要なツールとなるだろう。

今後の展望として、LLM の進化やマルチモーダル AI の登場といった技術的進展を取り込みつつ、DX 人材の育成と組織的な活用体制の強化を通じて、生成 AI のポテンシャルを最大限に引き出すことが期待される。これにより、知財部門はより戦略的な役割を担い、経営判断への貢献を一層深めていくと考えられる。情報セキュリティや著作権といった課題への適切な対応も、持続的な活用拡大のための重要な要素となる。旭化成の知的財産部門における生成 AI 活用は、今後も業界の注目すべき事例であり続けるだろう。

1. [生成 AI を新規用途探索の自動化や製造現場の技術伝承において ...](#)
2. [IAM's 2023 Asia IP Elite revealed](#)
3. [旭化成、材料の用途開拓を生成 AI で 特許データを基に](#)
4. [旭化成の成長戦略における知的財産部門の貢献](#)
5. [旭化成が生成 AI 全社展開へ 3 領域またぎ無形資産活用し収益化](#)
6. [Daniel Ilan – Cleary Gottlieb](#)
7. [経営に近づく知財部署、旭化成では企業買収や売却判断の支援も](#)
8. [Asahi Kasei Group releases Intellectual Property Report 2024 ...](#)
9. [旭化成、DX 戦略説明会で生成 AI の本格導入を発表 社内 ...](#)
10. [知財を企業価値に変える～旭化成が挑む IP 人材育成を紐解く](#)
11. [旭化成が生成 AI 全社展開へ 3 領域またぎ無形資産活用し収益化](#)
12. [A CEO on Using IP Analytics for Expansion & Asset ...](#)
13. [よろず知財戦略コンサルティング](#)
14. [Japanese Law Issues Surrounding Generative AI](#)
15. [旭化成、生成 AI 活用拡大 新デジタル基盤を整備 – 日刊工業新聞](#)
16. [IP Strategy | R&D – Asahi Kasei Corporation](#)
17. [旭化成が注力する「知財の DX」、特許分析で競合他社の戦略 ...](#)
18. [DX を成功に導く「3 つの要因」 旭化成の価値創造へ](#)
19. [旭化成アメリカ、本社をミシガン州ノバイ市に移転 | 2024 年度](#)
20. [旭化成の知的財産活用レベル – よろず知財戦略コンサルティング](#)
21. [旭化成の久世副社長、生成 AI 全社展開で「3 領域またぎ無形 ...](#)
22. [Intellectual Property Report | R&D – Asahi Kasei Corporation](#)
23. [旭化成、自社技術で他社事業を共同開発 知財利用料得る](#)

24. [新時代に挑む知財戦略 IP ランドスケープのススめ「旭化成株式 ...](#)
25. [旭化成が材料の用途候補を探す生成 AI、精度高める秘訣は前 ...](#)
26. [旭化成が挑戦する経営戦略としての IP ランドスケープ 先進 ...](#)
27. [旭化成の知財戦略と知財 KPI](#)
28. [IP ランドスケープのススめ「旭化成株式会社」－ 特許庁](#)
29. [併催事業（セミナー） | 2024 知財・情報フェア ...](#)
30. [旭化成中村氏と KIT 杉光教授が語る IP ランドスケープ DX](#)
31. [生成 AI 全社展開で「3 領域またぎ無形資産活用」－ BizAldea](#)
32. [旭化成株式会社様 Legal Status Tracker 導入事例－ RWS](#)
33. [中国 EV 市場の急速進化に挑む旭化成 深圳発「共創」新モデル](#)
34. [旭化成が生成 AI で新規用途探索と技術伝承を強化－ AI Market](#)
35. [旭化成、材料の用途開拓を生成 AI で 特許データを基に](#)
36. [生成 AI 活用拡大する、旭化成が DX 戦略で新デジタル基盤整備](#)
37. [AI 搭載ソフトウェアの知財部門業務への 適用に関する課題と ...](#)
38. [旭化成の生成 AI 活用－ よろず知財戦略コンサルティング](#)
39. [総合化学メーカーの知的財産部門における活用－ SPEEDA](#)
40. [「生成 AI の活用は積極性と安全性の両立が重要」－旭化成](#)
41. [旭化成の成長戦略における知的財産部門の貢献](#)
42. [生成 AI 活用拡大する、旭化成が DX 戦略で新デジタル基盤整備](#)
43. [旭化成の生成 AI 活用－ よろず知財戦略コンサルティング](#)
44. [旭化成中村氏と KIT 杉光教授が語る IP ランドスケープ DX](#)
45. [経営に近づく知財部署、旭化成では企業買収や売却判断の支援も](#)
46. [旭化成の知財戦略と知財 KPI](#)
47. [旭化成が生成 AI で新規用途探索と技術伝承を強化－ AI Market](#)
48. [旭化成、材料の用途開拓を生成 AI で 特許データを基に](#)
49. [旭化成が生成 AI 全社展開へ 3 領域またぎ無形資産活用し収益化](#)
50. [旭化成、材料の用途開拓を生成 AI で 特許データを基に](#)
51. [AI 搭載ソフトウェアの知財部門業務への 適用に関する課題と ...](#)
52. [生成 AI 全社展開で「3 領域またぎ無形資産活用」－ BizAldea](#)
53. [総合化学メーカーの知的財産部門における活用－ SPEEDA](#)
54. [生成 AI を新規用途探索の自動化や製造現場の技術伝承において ...](#)
55. [旭化成の久世副社長、生成 AI 全社展開で「3 領域またぎ無形 ...](#)

56. [経営に近づく知財部署、旭化成では企業買収や売却判断の支援も](#)
57. [旭化成が材料の用途候補を探す生成 AI、精度高める秘訣は前 ...](#)
58. [旭化成の知的財産活用レベル — よろず知財戦略コンサルティング](#)
59. [知財講座 2025『IP ランドスケープによる経営活動への貢献 ...](#)
60. [生成 AI を新規用途探索の自動化や製造現場の技術伝承において活用開始 | 2024 年度 | ニュース | 旭化成株式会社](#)
61. [生成 AI 活用拡大する、旭化成が DX 戦略で新デジタル基盤整備 | ニューススイッチ by 日刊工業新聞社](#)
62. [旭化成が材料の用途候補を探す生成 AI、精度高める秘訣は前工程の自然言語処理 AI | 日経クロステック \(xTECH\)](#)
63. [旭化成が生成 AI 全社展開へ 3 領域またぎ無形資産活用し収益化 — BizAldea](#)
64. [旭化成、特許検索を全社員が手軽に 事業発案を後押し](#)
65. [AI 搭載ソフトウェアの知財部門業務への 適用に関する課題と ...](#)
66. [旭化成社長ら、知財経営語り合う — 日本経済新聞](#)
67. [総合化学メーカーの知的財産部門における活用 — SPEEDA](#)
68. [如何處置這些米蟲專利一直是企業的頭痛課題。在 AI 應用普及之前](#)
69. [知財講座 2025『IP ランドスケープによる経営活動への貢献 ...](#)
70. [導入事例 | 特許調査支援サービス「PatentSQUARE」](#)
71. [よろず知財戦略コンサルティング](#)
72. [本当に必要？知財戦略に DX が求められるワケとは](#)
73. [経営に近づく知財部署、旭化成では企業買収や売却判断の支援も](#)
74. [ニュース | 旭化成株式会社 — Asahi Kasei Corporation](#)
75. [トップの決断、客観データが支え 旭化成の知財戦略](#)
76. [併催事業（セミナー） | 2024 知財・情報フェア ...](#)
77. [旭化成が AI 特許調査プラットフォーム Amplified を全社員に ...](#)
78. [旭化成中村氏が語る、日本の IP ランドスケープの現在地 最新 ...](#)
79. [IP ランドスケープのススメ「旭化成株式会社」 — 特許庁](#)
80. [旭化成の知財戦略と知財 KPI](#)
81. [旭化成が材料の用途候補を探す生成 AI、精度高める秘訣は前 ...](#)
82. [知財（知的財産）／その他（化学・素材・化成品）／900 万円以上 ...](#)
83. [旭化成の成長戦略における知的財産部門の貢献](#)
84. [総合化学メーカーの知的財産部門における活用 | 経済情報プラットフォーム スピーダ \(Speeda\)](#)
85. [経営に近づく知財部署、旭化成では企業買収や売却判断の支援も | 日経クロステック \(xTECH\)](#)
86. [旭化成、特許検索を全社員が手軽に 事業発案を後押し — 日本経済新聞](#)

87. [知的財産報告書 | 研究・開発 | 旭化成株式会社](#)
88. [旭化成株式会社様の『知的財産報告書 2024』に弊社ツールを ...](#)
89. [中村 栄 | インタビュー | Creating for Tomorrow | 旭化成株式会社](#)
90. [知的財産報告書 | 研究?開発 | 旭化成株式会社 - jdgaming](#)
91. [旭化成の知財戦略と知財 KPI](#)
92. [旭化成株式会社様の「知的財産報告書 2023」に弊社ツールを ...](#)
93. [総合化学メーカーの知的財産部門における活用 - SPEEDA](#)
94. [旭化成、知財のD X化 自由奔放なリケジョが仕掛け人](#)
95. [イノベーション事例 | 旭化成を知る](#)
96. [旭化成株式会社様 Legal Status Tracker 導入事例 - RWS](#)
97. [IP ランドスケープのススメ「旭化成株式会社」 - 特許庁](#)
98. [知的財産報告書 | 研究・開発 | 旭化成株式会社](#)
99. [知的財産報告書 | 研究・開発 | 旭化成株式会社](#)
100. [旭化成株式会社様の『知的財産報告書 2024』に弊社ツールを ...](#)
101. [旭化成の知的財産活用レベル - よろず知財戦略コンサルティング](#)
102. [旭化成レポート 2024 年版 - 濱摺情報](#)
103. [知的財産報告書 | 研究?開発 | 旭化成株式会社 - jdgaming](#)
104. [知的財産報告書 | 研究・開発 | 旭化成株式会社](#)
105. [生成 AI を新規用途探索の自動化や製造現場の技術伝承において ...](#)
106. [旭化成の知的財産活用レベル - よろず知財戦略コンサルティング](#)
107. [旭化成、材料の用途開拓を生成 AI で 特許データを基に](#)
108. [材料の新規用途探索や製造現場の技術伝承において生成 AI の ...](#)
109. [旭化成メディカル株式会社の特許登録一覧 2024 年 - IP Force](#)
110. [併催事業（セミナー） | 2024 知財・情報フェア ...](#)